

今年度の一般建築部門への応募は昨年より2件増えて40件となった。

まず、選考の経緯について記しておく、書類審査による一次選考では、あらかじめ応募作品の資格を確認し、各作品に対して各審査委員が評価点をつけ、その合計点の上位の作品から検討していき、ひとつひとつの作品を精査し合議の上、現地審査の対象となる建築作品を14件に絞り込んだ。現地審査は8月末に4日間かけておこなわれた。

現地審査では印象や評価について活発に意見交換された上、視察後の第2次審査委員会で意見交換の後、投票により最終的に選考することにした。各人の評価点数の合計点を参考にして、最優秀賞が1点と、優秀賞8点、またアピール賞を2点選定した。

全体的に、今年の特徴としては、応募作品には保育園と教育施設が多く見られたが、特色ある取り組みや技術的な先進性の求められるものなどが見られ、最終的には多様な施設に賞を出すことができた。規模もまちまちだが、それぞれに特色のある技術力の高い力作が多く印象にのこった。

中でも、最優秀賞となった「オーシャンゲートみなとみらい」は、周辺の既存の建物との関係性から外観デザインを読み解き、きめ細かい配慮が随所に見られ密度の高い設計による建築物として秀逸である。細部の工夫を支える施工の確かさや技術力を総合的に備えた建築物として高評価を得た。

優秀賞の「味の素株式会社「クライアント・イノベーション・センター」」は、企業の広告的な役割も果たす建築物として、手作的で彫塑的なその個性的な外観を表現した優れた3Dデザインとその四肢構造との整合性、機能的にもワークショップや創発を誘う空間構成などの点が、一体的に成功している。

「コブレ二俣川（二俣川駅南口地区第一種市街地再開発事業施設建築物）」は、既存の駅の再開発だが、路線の増設により駅舎だけでなく集合住宅棟や商業施設、公共施設の大規模な開発となり、道路付け替えやトンネル設置など都市計画的にも結節点となる、長年にわたるプロジェクトをまとめあげた総合力が評価された。

「茅ヶ崎公園体験学習センター うみかぜテラス」は、非常に多様化する現代の市民ニーズを引き受けて構想された運動公園の再開発だが、年齢層や利用目的の様々な活動要求に応える多目的な市民利用施設として、地形を活かし、地下を感じさせない空間構成など豊かな建築空間を実現している。

「本覚寺の森 観音霊園・観音堂」は、谷戸の原風景を彷彿させる地域の遺伝子を引き継ぎ、高低差の大きい敷地条件を活かした傾斜大屋根の造形と構造、それに敷地内の樹木葬や地域に開いた活動の場、大学との連携などこれから先の寺や墓園のあり方を様々提示している。長大な時間の流れを感じさせる。

「カミヤト凸凹保育園」は、運営者の確固たるダイバーシティ理念による保育方針のもと、開放廊下の動線による外部と内部の融合、視覚的な連続性、将来の施設機能への対応など機能的にまとめている上に、木材や食器などの本物性の質感を活かした建築となっており、子どもたちに見事に使いこなされている。

「読売日本交響楽団練習所」は、通常のホールとは異なる練習用途の空間という独特な音響特性を精緻に計算にいった上で、特殊解を丁寧に構築し、ディテールから外構、またメンテナンスしやすさなども良く練られた設計により作り上げられている。外観上も周辺の鉄道駅と結びつきを重視したものとなっている。

「藤沢市民病院」は、大規模な病院の全体改修であり、既存の建物を使いながら順次建て替えて行く中で、機能の分離と動線の明快さを保っているのは優れた再開発技術と言えよう。複合エネルギーや先端技術のための新しい試みの空間を加味し、また、大庇などの空間要素を加えながら、全体の調和が保たれている。

「慶應義塾高等学校 日吉協育棟」は、日吉キャンパスに建つ歴史的近代建築である旧館との連続性を保ちつつ、ひっそりと崖地の上にたたずんでおり、展望の良い空間や図書館、ホール、トレーニングルームといった異種用途の複合空間を見事にまとめあげている。眼下に広がる崖地と木材を活かした内装とがうまく調和している。

今回のアピール賞は、まず「既存建築物の有効活用」として「厚木市立病院」は、限られた敷地条件の中で、長年にわたる既存建築との格闘の結果として、部分的な改修の継ぎはぎ感が全く無く最終形態は調和のとれた一体的なデザインとして成立していることが見事である。「環境」として「川崎市立小杉小学校」では、周辺地域環境の急激な変化としてのタワーマンションの林立から、児童数の急増に対応して30クラス規模まで想定し、時間的変化の吸収と大規模校の人間化を主要テーマとし、木材利用を徹底することにより応えている。